

■報告

第37回技術士全国大会の報告

シンポジウムⅡで(財)三重県産業支援センターのイノベーションセンター長国保氏が講演された「求められる日本製造業の構造転換と地域の産業政策」の報告を読み、わが国における科学技術の将来に求められているものが何であるかを再認識させられました。

報告によると、氏はわが国を世界一のものづくり大国に押し上げてきた大量生産技術も、近年は人件費の安価な海外の成長によって劣勢に立たされており、日本を技術立国として再生するためには知的集約型構造への転換が不可欠と指摘しています。そのなかで、国内雇用を維持していくためには発明力、創造性に富んだ技術者の育成が重要であり、『切符切りしかできない人は不要』との指摘は技術者の一人としてハッとさせられました。

そのうえで氏は、ゆとり教育そのものが完全に間違っていると断じていますが、私はゆとり教育の基本理念は創造性に富んだ子供達を育てていくことにあったものの、教育現場が児童の考える力を伸ばそうという本来目的を希求することなく、教職員の労働時間短縮を優先したことが児童の学力低下を引き起こす原因になったと感じています。

今回の報告は、氏の話を紹介することで『資源のないわが国にとって最大の資源は人材であり、その根幹は教育にある』ということを示唆しており、改めて教育の重要性を認識させるものでした。

(H.F)

第40回日韓技術士会議

メインテーマ：グリーンテクノロジーと技術士の関わり

40周年の節目を迎えた日韓技術士会議の報告です。40年も継続して行われている会議とは、すご

いなあと感心して読ませていただきました。40年前の日本と韓国との関係はどうなっていたのでしょうか？最近はかなり友好関係ができていているように思いますが、当時は反日感情などがあってそれほどでもなかったように想像します。その中で技術会議を継続されてきたことは、関係者のご助力の賜と敬服するしだいです。

筆者の方は、第22回から参加されているとのこと、これまでの参加で特に印象に残ったとされている北朝鮮との国境に近いソクチョ市での開催の紹介には、少し驚きました。たぶん、今は危険が伴って行くことすらできない場所ではないでしょうか。

会議のメインテーマにあるグリーンテクノロジーとは、「環境保全に関わるあらゆる技術を指す」とあります。地球環境を守りながら持続可能な社会を構築するための技術開発が、今技術士に求められていると思いました。

(Y.K 血液 AB型)

第13回北東3支部技術士交流研修会 in 盛岡
「地域活性化に向けた技術者の取り組み」

第一に今回の東日本大震災におきまして、犠牲になられました皆様にお見舞い申し上げます。

また、今まさに復旧・復興に向けて、精力的に取り組んでおられる東北各県の技術士の方々に応援と激励を送らせていただきます。

今回のテーマは、地域内で地域の住民の方々と一緒に精力的に市、町、そして村の復興に向けて「新たなまちづくり」を進めるうえでの参考となる発表がされていました。改めて読ませていただくと地域ごとの精力的な取り組みが報告されており、「私たち技術士の社会貢献について、これからも積極的に取り組まなければ」との思いを強く感じるものでした。

また、見学会に行かれた「平泉 中尊寺」も今年は念願の「世界遺産」に登録されるものと思います。

東北の観光資源である日本三景の一つである松島も無事であったことと合わせ、東北3県の観光資源が盛隆になると共に、被災地域の方々が一日でも早く、元気になられることを祈念いたします。

(J.I)

地域産業研究会現地見学会報告

「豊かな自然の魅力を活かした持続可能なまちづくりへの取組」

自然が豊かな黒松内町の活性化に技術士会が大いに力を発揮していることを知り大変感銘を覚えました。町ぐるみで移住計画を推進しており、すでに20世帯50人以上の方が黒松内に移り住んでいるとのこと。体験型宿泊施設も充実していて、私も一回トライしてみようかなと思いましたが、霧が多く、雪が多く、人が少なく、仕事が少なく、ゴルフ場がないと知り、都会暮らししか知らない私にはとても無理だということが分かりました。東北も自然が豊かでのどかな所です。しかし、今回の大震災でそれがすべて失われてしまいました。検討されていることとは思いますが、震災にあわれた大勢の方に移住してもらってはどうか。一次産業が得意な人が多いので、町の活性化にもつながると思います。

(おせっかい男MS)

2010年度業務委員会主催講演会報告

「北海道の宇宙ロケット開発—どーせ無理…廃絶宣言—」

最初この報告のタイトルを見てちょっと驚いた。北海道では宇宙ロケット開発が無理なのかなと誤解したが、そうではなくて「どーせ無理」とあきらめることを廃絶する趣旨であることが本文を読んでよくわかった。もっともな話で、何事も無理とあきらめてしまっっては物事は一歩も進まない。

ところで、これまで日本の宇宙開発は国主体の「研究開発主導型」で進められてきたため、世界一流の技術を持ちながら商業的展開が遅れていた。今後は民間企業を含め国際競争力強化の「利用ニーズ主導型」による産業振興が必要と云われている。

このような状況から、国家的な宇宙開発戦略を推

進する体制を構築することを目的として2003年10月、(独)宇宙航空研究開発機構(JAXA)が誕生し、更に「宇宙基本法」が2008年5月に制定された。宇宙には夢がある。2009年話題となった宇宙飛行士の若田光一さんが国際宇宙ステーションで4ヶ月の長期滞在、昨年は日本の小惑星探査機「はやぶさ」が7年をかけて小惑星「イトカワ」から土の成分を持ち帰った話など興味が尽きない。今日本の経済状況を考えると予算縮小を余儀なくされているこの宇宙航空研究開発であるが、日本の国家戦略として世界の宇宙産業の開発に遅れることなくこの分野を継続すべきと思う。

植松氏は「どうせ無理」という言葉をなくすため独自の宇宙開発を行っているとの事であるが、中学生の頃からの夢を実現し、それにかかる熱い情熱が感じられ、今後の計画が成功されるよう期待したい。

(K.T)

RS研究会 平成22年度第2回研修会 報告

実は、この研修会に参加したいと思っておりましたが、仕事の都合で断念した企画でしたので、興味深くご報告を拝読させていただきました。

今回の研修会は、循環技術システム研究分科会で企画され、時勢に即した内容になっており多くのことを学ばれましたね。そして、「自然エネルギーの活用は、私達の住む北海道を持続可能な循環型社会とするために必要不可欠です。……その普及に向けた活動に貢献したいと考えます。」と結ばれております。本当にその通りだと思います。

これまで研修会という自己研鑽的なイメージが強かったのですが、この研修会のように社会に出て、社会から学び、そして社会に返していくことまで考えられた活動は、本当に素晴らしいことだと思います。

また、研修会に栃木県鹿沼市から駆けつけられた参加者もいらっしまったとか、嬉しいことですね。

このような活動でリーダーシップを発揮されている方は、仕事との両立で本当に大変なことも多いと思われます。頑張ってくださいね。応援していますよ。これからの活動も大いに期待しています。

(俄か循環研応援団になったMK)